

## 三条市視察報告書

- 視察日：平成 29 年 5 月 19 日（金）
- 視察先：新潟県三条市（人口：99,548 人、面積：432 km<sup>2</sup>）
- 視察事項：デマンド交通の取り組みについて
- 視察者：原輝雄、有賀正義、友田宗也
- 受け入れ担当者：市民部 環境課 生活安全・交通係 主任 遠山哲雄  
係長 長田高志 ※敬称略

### ◎デマンド交通事業実施の背景

三条市では、公共交通利用者の減少に伴い、不採算路線のサービスが低下し、さらに利用者の減少を招くという負のスパイラルに陥っていたことや、マイカー依存の拡大、交通空白地域への対応の必要性などから、市内の公共交通を抜本的に見直し、新たにデマンド交通を運行することになりました。

その後、平成 20 年度から今日に至るまで、試行錯誤を重ねながら事業展開が図られてきましたが、ジャンボタクシーを利用した下田地区における社会実験においては、まだデマンド交通そのものが世間一般に知られていなかったことから、事前の電話予約や途中での乗り換えに対する不満の声が寄せられ、課題だけが残る結果となってしまいました。

また、同時に市街地地区ではバス車両を活用したデマンド交通の社会実験がスタートしましたが、こちらは車両が大きく小回りが利かないことや気軽に乗りにくい雰囲気があることなどが課題として指摘されました。そこで、交通事業者も参画した三条市地域公共交通協議会（以下、協議会）で検討した結果、バス車両からタクシー車両に切り替えて事業が実施されることになり、あわせて事業の実施エリアを全市へと拡大することになりました。その結果、当初 155 人／日であった利用者数は 278 人／日へと劇的に増加し、その後も順調に利用者数を伸ばして、平成 25 年度利用実績は約 440 人／日まで増えています。

ただ一方で、利用者の増加に伴い行政の負担も増加（377 万円／月→631 万円／月）するとともに、路線バスよりも運賃が安いエリアが一部に発生するなど、新たな課題も生じることになりました。そこで、平成 26 年 1 月からそれまでの料金体系を見直し、バスとタクシーの間の水準に料金を設定するとともに、一人乗車については割高な料金を徴収することにしました。その結果、利用者数は 26%減少したものの、行政負担も 378 万円／月へと約 40%減少し、適正な水準に落ち着きました。

また、あわせて「デマンド交通おでかけパス」を新たに発行し、複数人乗車を促す取り組みを平成 28 年 1 月からスタートさせました。これは 65 歳以上の方を対象に、デマンド交通に複数人で乗車すると 100～300 円の割引が受けられる「おでかけパス」を 1,000 円で販売するというもので、購入者は複数人乗車時の割引を受けられるとともに、協賛店舗が行う様々な特典（割引やポイント付与など）を受けられる仕組みになってい

ます。当初は市内下田地区を対象に社会実験が行われてきましたが、購入者が目標の 40 人を大幅に上回る 127 人に達するとともに、目的である複数人乗車率も前年比で 8%伸びるなど一定の成果が見られたことから、平成 29 年 7 月から全市へと拡大されることになりました。

#### ◎三条市におけるデマンド交通の仕組み

市内全域に 614 か所（半径 300m 間隔）に及ぶ停留所が設けられ、利用希望者は利用時間の 1 時間前までに利用日時や乗降停留所等をタクシー会社に連絡することになっています。料金については一人乗車の場合には距離に応じて料金が異なり、複数人乗車の場合には市内 4 つに分けられたエリアごとに 400 円、または 800 円の一律料金制になっています。また、市は正規運賃と徴収運賃との差額相当分をタクシー事業者も参画する協議会に対し補助（約 5,000 万円）する仕組みになっています。

このデマンド交通は「ひめさゆり」という愛称が付けられていますが、協議会が行ったアンケートによれば、利用者のおよそ 8 割が 60 歳以上であり、高齢者の外出機会の創出にも寄与しているものと思われます。ちなみに、運行日時は月曜日から金曜日の午前 8 時から午後 6 時までとなっており、平成 28 年度には 297 人／日の利用者がありました。

#### ◎所感

市内全域を対象とした 614 か所に及ぶ停留所の設置と、定時制ではなく、利用者が利用したい時に利用できる仕組みが多く利用者を生む一つの要因になっていると思われる。また、協議会が主体となっていることから、既存のバス路線やタクシーとの調整がうまく図られているようです。藤沢市のように地域提案型で多様な形態の事業を実施することも一つですが、交通事業者も参画した協議会を中心に、これからの高齢化社会も見据えた地域の足の確保策を検討することも今後は必要になってくるのではないかと考えます。

また、「おでかけパス」を発行し、複数人乗車や利用促進を図る取り組みも注目される所です。藤沢市内でもオンデマンド交通の利用者をいかに増やすかが課題となっていますが、三条市の取り組みは一つの大きなヒントになると思われます。